

瀬戸内海国立公園と 大久野島の概要

中国四国地方環境事務所
広島事務所

話題

- 1 瀬戸内海国立公園について
- 2 大久野島の概要と現状
- 3 未来づくりワークショップの成果について

国立公園の目的

国立公園を規定している法律 → 自然公園法(昭和32年)

目的(第1条)

優れた自然の風景地を**保護**するとともにその**利用**の増進を図り
もって国民の保健、休養及び教化に資する

国立公園指定の背景 → 昭和9年(1934年)

昭和初期の不況

外貨の獲得

外国人観光客を誘致

「保護」と「利用」の双方が重要

瀬戸内海国立公園

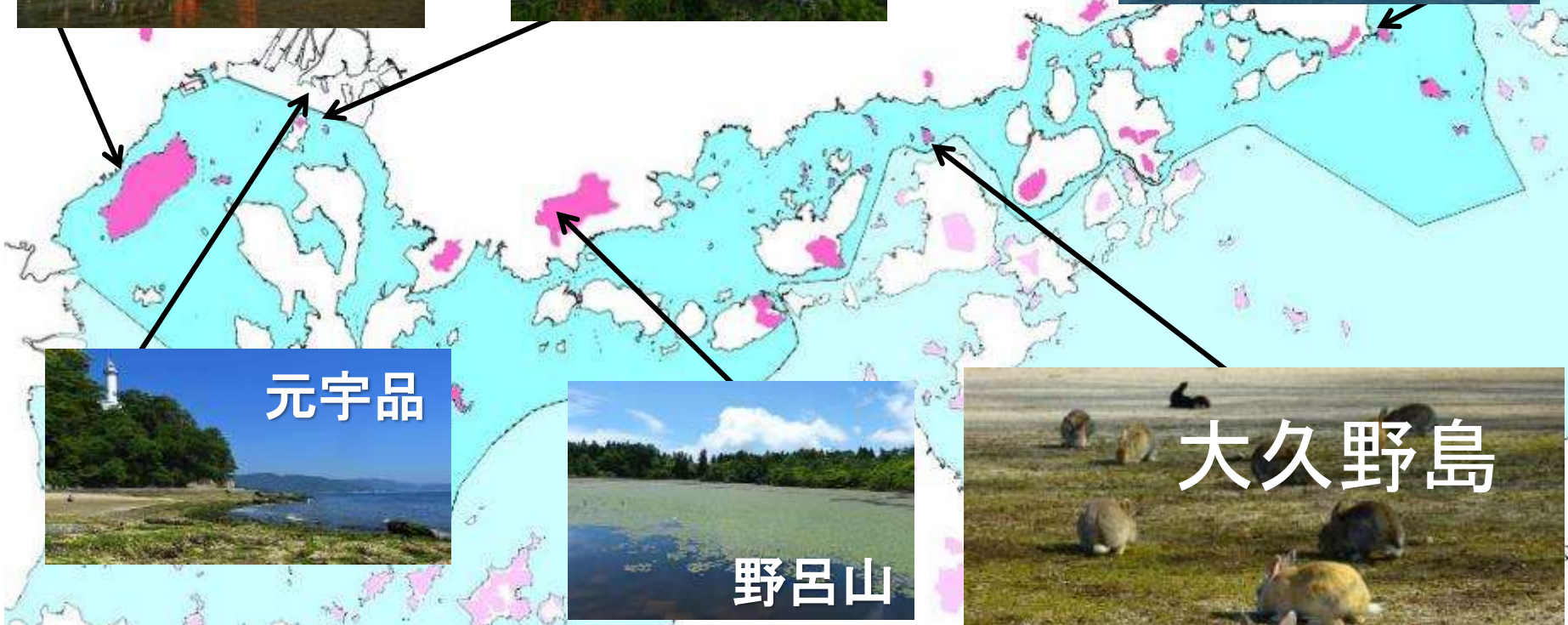
- 指 定 昭和9年3月16日
（備讃瀬戸地域中心）
大久野島は昭和25年に編入
- 面 積 66,934ha（陸域）
海域を含めると90万haを超える
- 関係府県 11府県
（大阪、和歌山、兵庫、岡山、広島、山口、
香川、徳島、愛媛、福岡、大分）
- 特 徴 多島海景観（備讃瀬戸、芸予諸島、防予諸島）
の海域と展望地
渦潮・潮流（鳴門・来島・関門海峡）
人文景観（港町、段々畑、神社）
熔岩台地と浸食地形、花崗岩山塊

瀬戸内海国立公園



- 日本で最初にできた国立公園の一つ
- 海を含むと日本最大の国立公園





瀬戸内海国立公園
広島県地域の見どころ

忠海付近の国立公園区域



芸予要塞時代



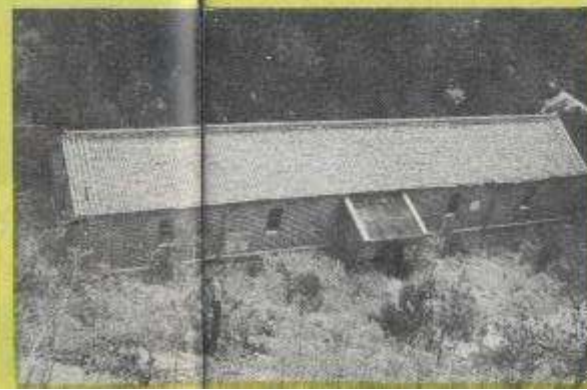
(上) 北部砲台跡 要塞時代には、ここに24cm砲が4門、12cm砲が4門設置されていた
 (下) 南部砲台跡 ここには24cm砲が4門あった、今は城壁の一部は崩れおちている

芸予要塞時代

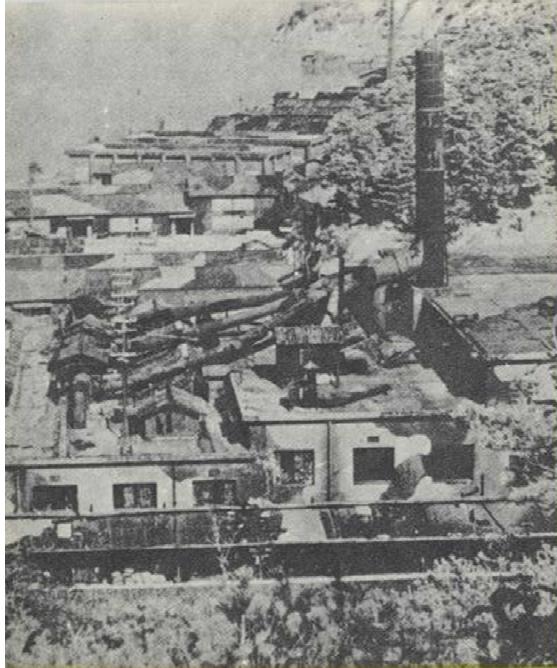
1900年から1924年まで、対岸忠海町の冠崎砲台とともに、興軍港の東の見張り地として島内3ヶ所に砲台を築造し、16門の大砲を備えていた。大砲は取り去られたが、切石とロシアから輸入した赤煉瓦で築かれた砲台跡は今も当時のつわものの夢を忍ばせている。



右頁
 (上) 大久野島砲台の大砲 要塞時代には写真撮影など思いもよらぬことであったがこの写真は、大久野島要塞が廃止されて他へ移転することになった直前の取組りを解かれたおすかの間に特に許されて大砲をバックに記念撮影した幸運な旧忠海中学校生である
 (下左) 大久野島砲台弾薬庫跡 今も東部海岸の上の各間に昔の状態のまま残っている
 (下右) 中央砲台跡 展望台の北の大鉄塔の下にある、要塞時代は28cm砲4門があった

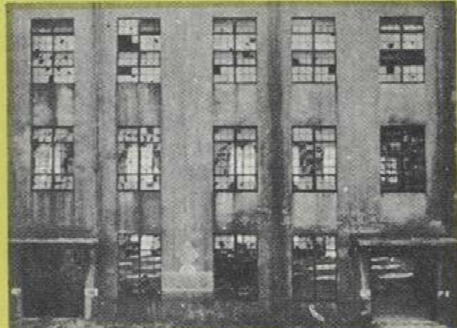
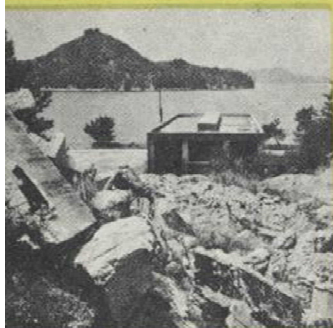


毒ガス製造時代



イペリットガス発煙筒工場 西海岸にあった このあたりはやがてゴーカート場や野球場などになる予定地

下段 今（1965年）も島内に残る火工廠時代の跡



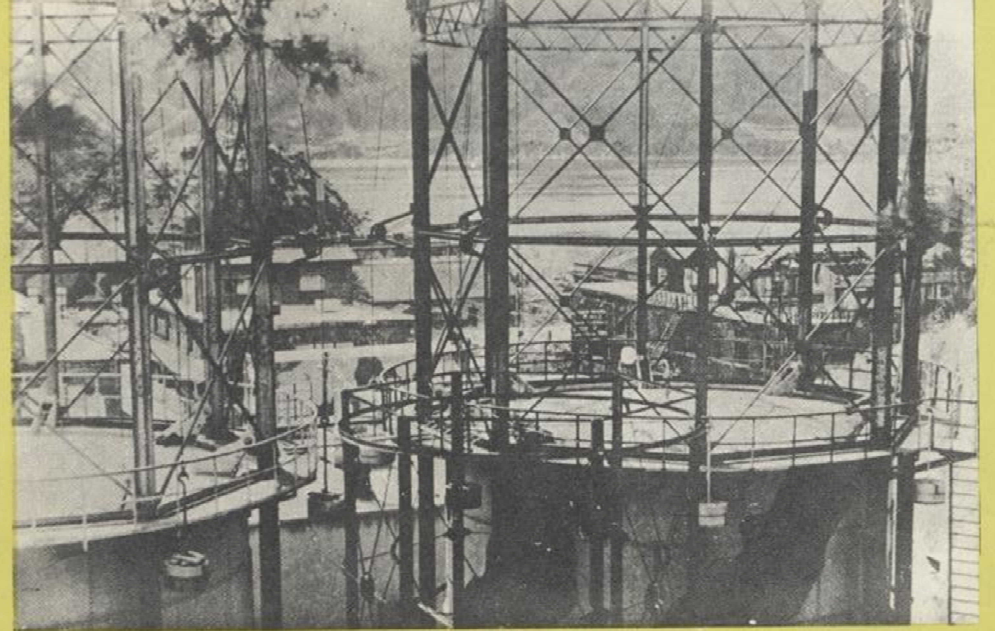
造兵廠火工廠時代

芸子要塞が廃止されたあと、造兵廠火工廠が置かれて、1929年からはいよいよ毒ガスの生産をはじめた。日本が世界中の国々から敵視されて、遂に敗戦のうき目を見る原因の一つとなったのである。当時の建造物の大部分は撤去されたが、一部は改造されて国民休暇村の施設に厚生しているものもある。



イペリットガス弾工場 今の《くのしま荘》は中央タンクの右側下あたりになる

（左から順に）掘り起された工場の基礎



イペリット工場のアセチレンタンク 今の《くのしま荘》の西寄りにあった 今はこんな不粋な建物はあとかたもない この辺は近く白セメントの児童遊具や休憩所のならぶ芝生の広場になる

火力発電所 いたるところにある退避壕 焼けただれた貯蔵タンク跡 迷彩の色もあせた倉庫の建物





●毒ガス製造当時の大久野島
1944年頃

大久野島遺跡めぐり

発行日 2001年6月初版
 2003年3月改訂版
 2008年4月改訂版
 2014年3月改訂版

発行所 大久野島活性化協議会
 編集者 毒ガス島歴史研究所
 おおくのしま戦争遺跡の保存をすすめる会

アメリカ軍進駐・毒ガス処理



進駐して来たアメリカ軍の舟艇と火工廠の係員

イペリット工場も火焔放射機の前にはご賢の通り

アメリカ軍進駐・毒ガス処理

1945年8月6日広島に、つづいて9日には長崎に原子爆弾は投下された。わが国は遂に8月15日連合軍に無条件降伏した。

時をりつさずアメリカ軍はこの大久野島にも進駐して来て、翌1946年5月から約1年間にわたって、膨大な毒ガス製造工場や製品を或は火焔放射機で焼却したり、或は薬品で消毒処置したり、或は破壊して太平洋の海底深く撃沈投棄して、大久野島を包む毒泉を一掃した。



工場焼却の延焼を防止する消防隊員

毒廃液の焼却をする黒煙の柱



焼け落ちたイペリット工場のおと片付けをする作業員

毒液を船に積んで太平洋へ曳航するアメリカ軍舟艇
この毒液を運んだ船は船もろとも太平洋で撃沈された



大久野島の整備

大久野島は昭和25年に国立公園編入

- 昭和35年(1960) 国民休暇村の設置が決定
同年 厚生省の国立公園管理員着任
(以後3代 S42まで)
- 昭和36年(1961) 財団法人国民休暇村協会設立
- 昭和38年(1963) 大久野島国民休暇村オープン

国民休暇村

国立・国定公園の集団施設地区に設置された
総合的休養施設
低廉で健全な宿泊施設と
地域特性に応じた各種野外
レクリエーション施設を
集団的に整備



集団施設地区

公園の利用・管理のための施設を総合的に整備し、快適な公園利用の拠点とする地区

大久野島集団施設地区

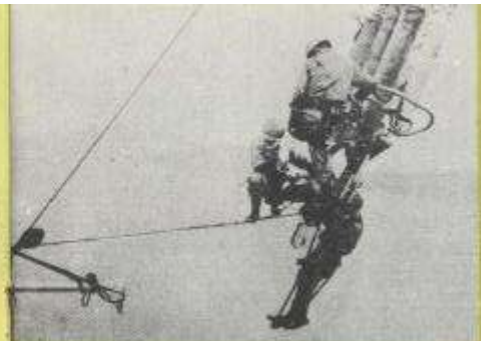
- 瀬戸内海国立公園の中央部に位置し、到達性も良好
- 長時間滞在型の野外レクリエーションや自然とのふれあいの場と位置づけ
- 施設整備にあたっては、島の歴史についても学ぶことができるよう配慮

送電鉄塔の建設 (1962年 (昭和37年) 完成)



世界最高の送電鉄塔建つ
 電源開発株式会社は1959年9月
 から四国と中国の電力相互融通を
 はかるため、瀬戸内海横断の中西
 国連絡送電線の建設計画をたて、
 1961年から工事にかかり、大久野
 高にも三基の大鉄塔を建立して、
 1962年10月完成した。大久野島の
 北端と対岸忠海町高床の鉄塔は高
 さ 226 m あって現在送電鉄塔とし
 ては世界最高である。更に大久野
 島と忠海の海上をまたぐスパンは
 2357 m あって、送電線としては世
 界で三番目に長い。

(左) 世界一の送電
 鉄塔 島の丘陵の形
 勢に立つ 写真の右
 からのぞいているの
 は島の最高地に建つ
 展望台の階上である



(上) 緊線作業 はるかに瀬戸内海を足もとに見おろして目もくらむ軽業師とでもなるといふ空中作業
 (右上) メッセージワイヤーわたし 大久野島と大久野島をつなぐ浮子の列を監視するヘリコプター
 (右下) 鉄塔基礎工事 バックホウを動員して掘削
 (下) ボルト締め 200 m を越える高所によじ登って一本一本ボルトの締りを見まわす作業員の真剣さ



休暇村の建設（1963年（昭和38年）オープン）



国民休暇村施設 工事はじまる

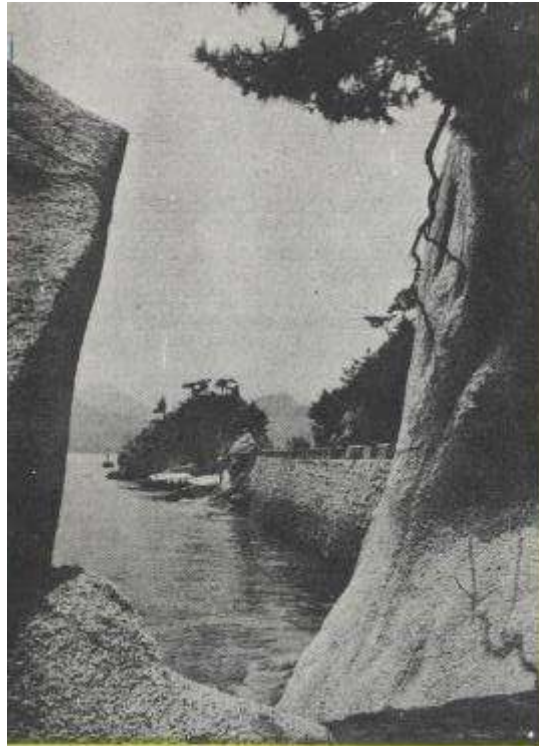
1960年12月1日国民休暇村に指定された大久野島は、1961年にはいと、電源開発の鉄塔工事とともに、中国財務局による火工寮時代の不要建造物の撤去工事、厚生省による公園施設工事を開始し、先づ宿泊施設のロッヂと《くのしま荘》を建設して、1963年から利用することになった。

上段（左）くのしま荘 道路から一段高く白亜の三階建
（右）ロッヂ 兵器廠時代の職員寮を改造した二棟

下段（左）くのしま荘の休憩室
（中）くのしま荘の宿泊室
（右）くのしま荘のロビー

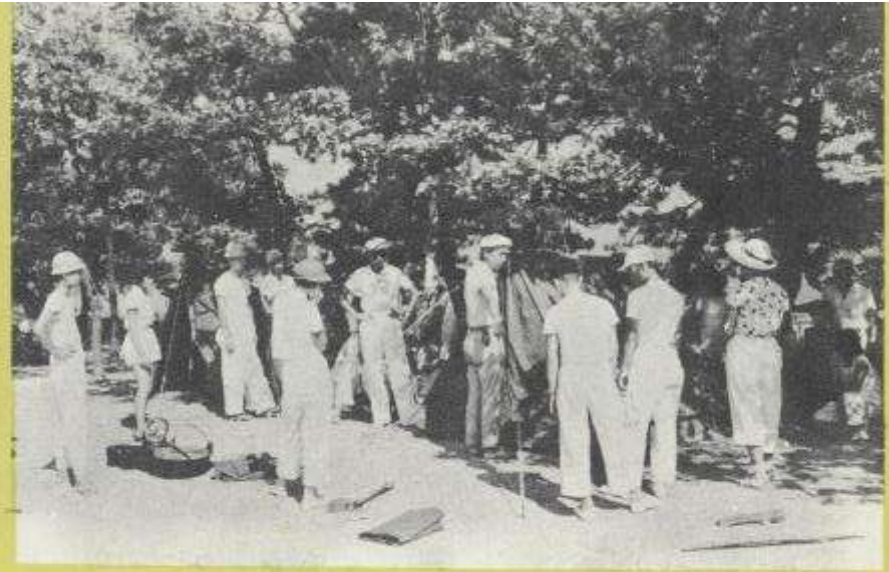


当時の利用



自然の楽園
 アメリカ軍のガス処理に伴う破壊と二度の山火事は大久野島の自然の風景をかなり損傷したが、それでもまだ島内にはいたるところに楽しい景観は残っている。奇岩の絶壁、白砂の海浜、緑したたる樹陰、丘陵台地からの眺望、更に島の周辺は四季を通じて内海屈指の釣場でもある。

(下) 燈台 島の南端の岬に立つ 燈台下の岩の間でサザエをさがすのも楽しい



(上) キャンプ 島の南部海岸に沿った樹陰はキャンプ場として最適などころ その上飲料水やトイレの設備も完全にできている
 (左) 機釣 海岸はいたるところ適当な釣場 年中太公望の三昧境
 (右) 海水浴 連日で夏の別天地



(右) 釣船 島にも釣船設備はあるが 対岸志海邊を基地とする遊漁船があり島の周囲は年中数十隻の釣船で賑わう



(上) 東海岸 ここはこんな岩場もあれば文字通り白砂青松の浜も続く
 (右) スナメリタジラ 島の周辺を悠々泳ぐスナメリは悠遊のまふれ



当時の利用

ラヂウム鉱泉発見

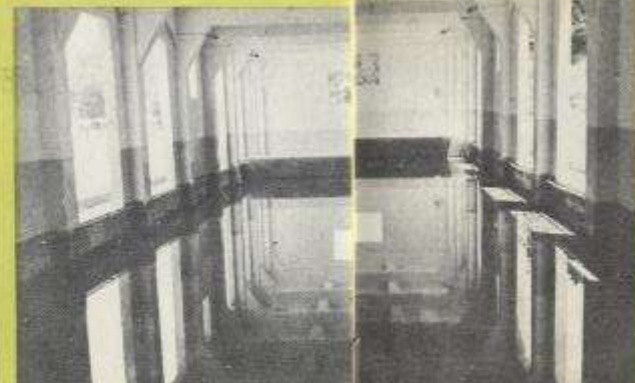
1963年宿泊施設完成で、島内の水
源施設整備中、はからずも島内から
ラヂウム鉱泉が発見された。広島県
下のこゑな小島に温泉のわき出たこ
とはこの国民休暇村に天啓の幸運で
あった。フトン含有53.15キユーリー
という高さである。温泉センター
とともに登山リフトも完成した。



上段

(左) 温泉浴場 くのしま荘の東端の前
方にできた 階下が脱衣室 階上が浴室
(右) 登山リフト 全長 243m 山上ま
で4分間で 途中の展望が又素晴らしい
下段

(左) 温泉センターの玄関の土産物売店
(中) 室内プール 幼児にも安全な構造
(右) ゴーカー 愉快なみんなの乗物



当時の利用



右頁
展望台 島の最高地に建つリフトの山上駅からは2分間のところ、喫茶室もある

ニジマス釣 夏季以外は室内プールに養殖ニジマスを放つて、楽しい釣池に利用

児童遊園地 グランコ・サベリ台など子供の好きな遊具をそろえた日当たりのよい広場 子どもも大人もみんな楽しそう



オートギバス 橋樑前から発車して、登山リフト乗場や《くのしま荘》前を通り、西海岸を島の北端まで往復する、かわいらしいバス



展望台など完成

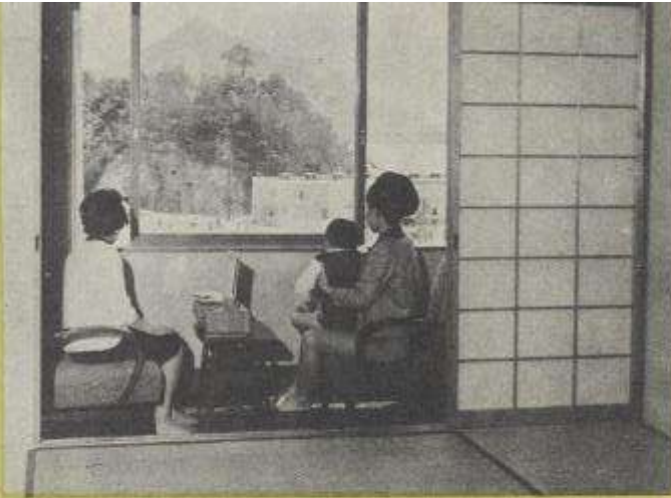
1965年春にはこの島の最高地にスマートな展望台もできて、登山リフトで楽に山頂に登れるようになった。老人子供も、展望台から望遠鏡で瀬戸内の風景を心ゆくまで楽しむことができる。児童遊園地も次第に整備されつつあるが、引続いて各種体育施設や水族館・植物園など観察施設の建設も急がれている。



当時の利用

宿泊と食事

現在のロッジの定員は150人《くのしま荘》の家庭的個室の定員は100人であるが、将来は1000人を収容できるまで設備を拡張する計画である。食堂は今も2ヶ所があり、ステージのある90畳の大広間もあって、売店・温泉浴場など宿泊と食事にはことかかない。

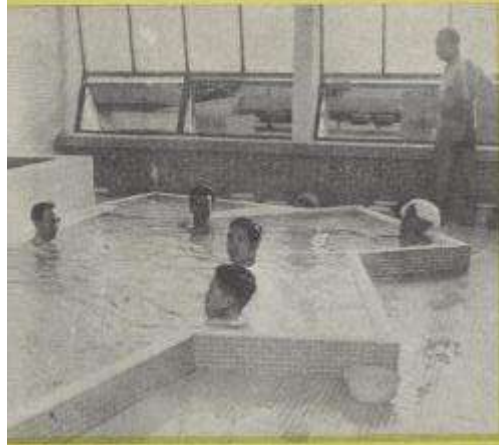


(上) くのしま荘の食堂 和食も洋食も用意している 宿泊客の食事もここでとることになっている 別にロッジにも食堂があり弁当持参者に開放 (右上) 大広間 舞台つきの50畳敷 主として宴会場 別に56畳の大広間もある 同じく舞台つき (右下) くのしま荘ロビー ミニバザールの売店もあり くつろいでテレビを見たり音楽もたのしめる



(下) くのしま荘前広場 明るい太陽の下でスケアダンスに興じる若い人々 見る目もまた楽しい

(上) くのしま荘宿泊室 10畳の日本間につづいて 6畳のベランダがある 定員は5人 (左) 浴室 面積は男女とも45㎡ 浴槽15㎡ (下) ロッジ廊下 両側に宿泊室がならぶ 室の広さは3人位から25人位までいろいろだ



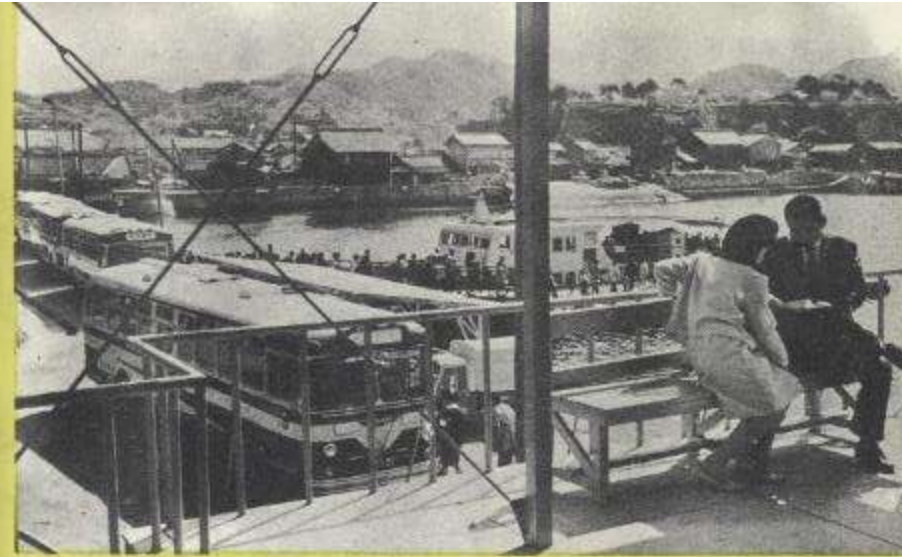
当時の利用



大久野島橋樑 着く船も着く船も 楽しみにはち切れそうな顔を
 装せてやって来る 向うに見えるのは愛媛県の大三島である
 大久野島ゆきフェリーボート これでマイカー族も島へ渡れる

交通

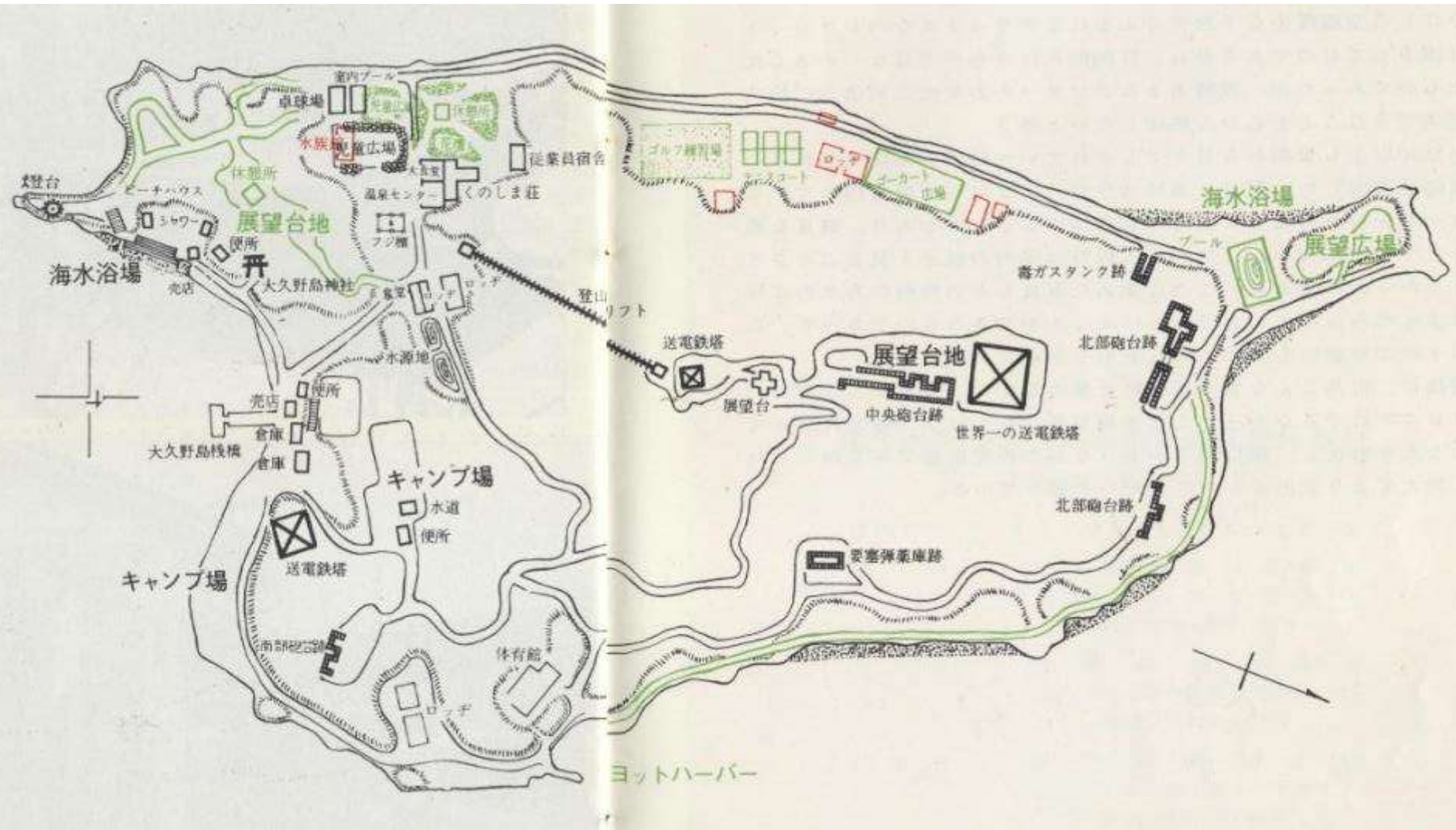
列車利用の客は
 呉線で忠海駅で下車し徒歩4分で忠海橋樑へ来る。橋樑からは海上15分で大久野島に着く
 広島や三原からは定期バスも運行されているが、団体客は貸切バスを利用して来るようだ
 島へは客船のほかにはフェリーボートもあるし、竹原・三原・尾道・瀬戸田をむすぶ定期船もある。



右頁
 (上) 忠海橋樑 そくそく押しかける貸切バス 降りて来る客はみんな大久野島ゆきの白い客船へ乗りこむ
 (下左) 呉線忠海駅まえ 行楽日の忠海駅の降車客の大部分は大久野島ゆきだ
 (下右) 忠海橋樑待合室 まわって登る階段が子供たちの人気



当時の利用



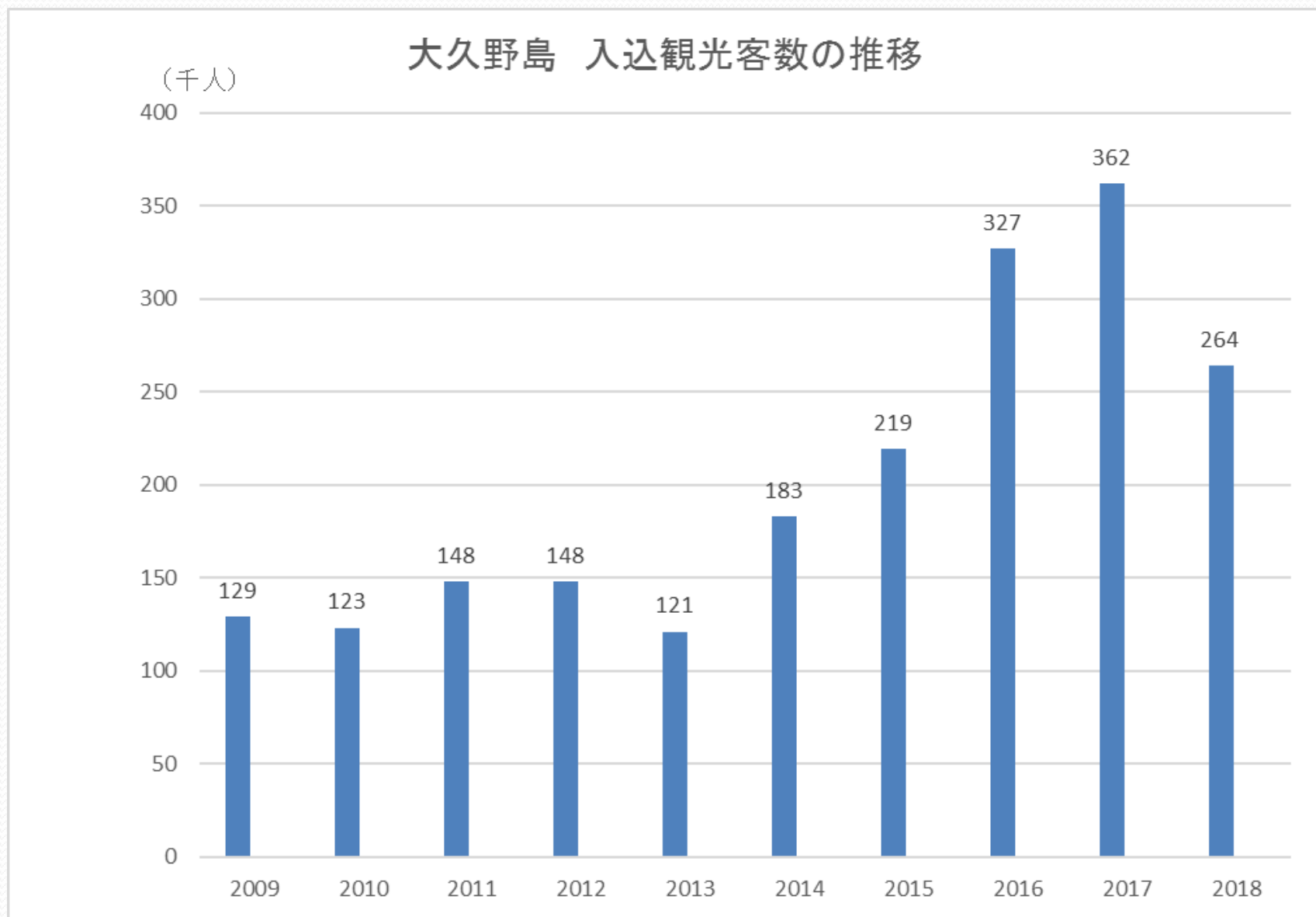
大久野島

面積 約70ha

ほぼ全域が環境省所管地
国立公園の集団施設地区



大久野島 最近の入込観光客数の推移(竹原市資料等による)



大久野島のウサギ

最近の個体数（推定値）

2006年	約300羽	（大久野島ビジターセンター調べ）
2013年	730羽以上	（ 同上 ）
2015年	750羽～1000羽	（Demello et al. 2016）
2018年	920羽以上	（大久野島ビジターセンター調べ）

入込み客数の増加は2014年から

○観光客の増加以前からウサギは増加
ウサギと人とのつきあい方が変わった
のはもう少し前から？

（参考：2011年がうさぎ年）

大久野島の抱える課題・問題

平成30年度に現状把握調査を実施しました

(課題全般の把握)

- 関係者へのヒアリング
- 来島者アンケートの実施

(ウサギ関係)

- 個体数調査
- 専門家へのヒアリング
- 健康状態調査
- 感染症媒介動物の生息状況調査

見えてきたこと

- 様々な関係者が、それぞれの立場・観点から多様な課題・問題を認識
→解決に向けて取り組んでいる方もいるが、個別では解決できない事柄が多い
- 島の中のみで対応できる問題はわずか
- 来島者への働きかけが必須